

県系人らが泡盛試飲

大会前に酒造所など視察

第4回世界のウチナーンチュ大会に参加するため来沖中のニューヨーク(NY)やシカゴなど北米地域の県人会会員ら約50人は10日、県内の食品工場や泡盛酒造所などを視察した。(一面参照)

那覇市の瑞泉酒造を訪れた30人は、タイ米や黒麹菌を用いる泡盛独自の製造工程や歴史などについて説明を受けたほ



第4回世界のウチナーンチュ大会



数種類の泡盛を試飲する県人会の会員ら
＝那覇市・瑞泉酒造

か、数種類の泡盛を飲み比べて。N.Y.沖縄県人会会長の「パーでよく泡盛を購入

する。最近では他県出身者や地元市民も泡盛を購入するようになった」と話した。同行した県産業政策課

の仲里和之主任は「県産品がどのように製造されているのかを見て、県産品のPR活動につなげてほしい」と述べた。一行は沖縄ハム総合食品(読谷村)、バイオ21(うるま市)、沖縄長生薬草(南城市)、石川酒造場(西原町)などを視察した。

募集するほか、他の国際交流団体との関係を構築。各国情勢などの勉強会なども開催する。新設の常任顧問に就任した牧志泰三元会長は「各国のメンバーが、相互発展できるようなビジネス交流を目指したい」と強調。副会長の上原一男氏、宮里由紀子氏、安里勝之氏は「沖縄の求心力が高いうちにネットワークを広げていきたい。初心に戻り、次のステップにつなげたい」と語った。

(2006.10.11 タイムズ)

スカーフ姿でWUBをPR

東会長ら交流に期待

WUB(世界沖縄県系人ビジネスアソシエーション)沖縄の東良和会長ら新役員は、12日に開幕する第4回世界のウチナーンチュ大会で新たに作ったWUBインタナショナルの赤いオリジナルスカーフ姿で参加、活動をアピールする。5日、



赤いスカーフを身に着け、活動をアピールするWUB沖縄役員ら
＝5日、沖縄タイムス社

沖縄タイムス社を訪れ、抱負などを語った。東会長は「貿易、流通、製造業など各会員の出身分野で具体的な事業が芽

だしするよう、信頼関係をさらに強くしていきたい」と意欲。会員を広く

米ハワイから来沖したWUB創設者のロバート・仲宗根氏は「大きな商売のためではなく、個人レベルのつながりがWUBの魅力」と期待した。